

自分の手で形にする 楽しさを追い求めて

和洗エンジニア株式会社

代表取締役 宮島 和幸 さん

住所：大川市大字下牟田口94516
TEL：094418510083
FAX：094418811309
HP：https://www.wakou-eng.com/

今月の夢追い人は、和洗エンジニア(株)の宮島さんにお話を伺いました。和洗エン

ジニア(株)は平成7年に個人事業として開業され、平成29年に法人化されています。まずは宮島さんに業務内容について伺いました。

「主に、電気機械器具製造業を生業にしています。詳しくは、制御盤やコントローラーと呼ばれるものの設計、製作、設置まで行っています。他にもFA装置の製作も行っています。FA装置とは工場の自動化を表しており、生産ラインにおける組立や検査、梱包などの工程を自動化するシステムのことです」

また実際に設計、製作されている制御盤について詳しく伺いました。「日頃使われている機械には

制御盤やコントローラーが使用されていると思います。テレビで見かけるような、自動車を作っている工場の製造ラインで使われている機械などには必ず使われています。例えば、高い建物を上下するエレベーターにも制御盤は使われています。人が乗るエレベーターには、モーターやワイヤーに繋げて上下するようになっていきます。エレベーターに乗りたい人が上に行くボタンを押せば、制御盤がその指示に従って、その階に箱が向かう。逆に下に行きたい人が下のボタンを押せば、箱が下に向かうようにモーターとワイヤーが動きます。そうやって制御する仕組みを集約した物を制御盤と呼びます。



外観





製造作業中の制御盤

また、エレベーターでいえば、上下することもそうですが、ドアが安全に開閉することや箱の中での操作に応じた制御を行い、使用者が安全にかつ効率的に機械を指示通りに動かすための基盤を製作することが主な業務になります。例としてあげたものはエレベーターでしたが、大川は木工の街なので、木材を加工するような機械の制御盤の製作を行うこともあります。例えば、木材の加工をただ切るだけではなく、連続して寸法通りに

切るような制御盤を製作して欲しいといったオーダーメイドのご依頼を受けることもあります」

では、宮島さんがこの業界を目指したきっかけは何だったのでしょうか。

「私たちの子どもの頃は、テレビが故障したら、個人で事業をしているまちの電器屋さんが近くについて、仲良くしているお店がどこの家庭にもあったんですね。当時は修理依頼をすると、すぐに来てくれて目の前で悪い所を直してくれました。電器屋さんが直してくださる姿を間近で見たいんです。子どもながらにかっこいいヒーローのような存在でした。そういう姿を見てきて、自分も電器屋になりたいって思ったのがきっかけですね。電気に関わる仕事がしたい一心で、高校も電気に進みました。しかし、いざ進学してみると、電気は電気でもエネルギーとしての電気を作る側の勉強とか、就職先も電気を作る方面が多かったんですよ。ただ自分は、まちの電器屋さんのような家電や機械に触れる業界を目指していたので、ちよつと思っ

ていたものとは違いましたね。なので、大学にも進学しましたが、これまた電気を作る前の電子だったり、材料の勉強だったり、電気を作る元の勉強が多かったもので、思い描いていたものとは結び付かず、3年時に中退してしまいました。それから、就職活動をしている中で、駅の広告看板が出ていた電気系の会社に電話、すぐに面接・入社ととんとん拍子に事が運びました。それがずつと思っていた電気に関わる仕事であったこと、また、入社後すぐに色んな仕事に携われる機会をいただけたことも今の私に繋がっていますね。現在の制御盤を作ったり、修理をしたりすることもその会社で覚えていきましたね。また新たに制御盤を作る事業をその会社で立ち上げさせてもらいました。作ること以外にも様々な部分でたくさんの事を学ばせてもらいました。そこでの4年間は本当に感謝しありませんね」

様々な経験や学びが今に繋がっていると話された宮島さん。今後の展望についても伺いました。

「主に依頼をいただくのは、

機械屋さん、設備屋さん、又は商社からが多いですが、様々な製造業の企業等がエンドユーザーになります。どの業種においても高齢化や人手不足が深刻な問題となつていきます。どの現場の機械や生産ラインにも効率化ができる部分や改善点があつたと思ふんです。この機械を使う生産工程には3人必要だけど、こういう風にしたらいよいよねとかここを変えたらもつと楽にできるよねって。そういう場合に私たちが機械の動きや配置などを効率よくしていくために一緒に考えていきたいですし、今後多く依頼をいただけたら嬉しいですね。実際に機械を操作、管理されているエンドユーザーの要望に耳を傾けることが、改善の近道とも考えています。経営者の方や現場で働く人たちまで含めたところで改善点を一緒に探して、一緒に良い方向にしていきたいと考えています」

幼い頃からの憧れを実現された宮島さん。そんな宮島さんが、今、目指す夢はなんでしょう。

「私の両親が事業をしていたという訳でもなく、何か

を自分で作るのが好きだったんです。まちの電器屋さんに憧れて電気関係の仕事に就いて、結果として今の事業を行っていますが、もし憧れた先が家具の職人だったなら、今とは違う、何かを作っていたのかもしれない。自分でも家電製品を修理しては動かすというのを繰り返してきました。ものを作るって楽しいことだということをみんなに経験してもらいたいなと思いますね。ゼロから形にして、自分が思い描いたことやものが目の前で思い通りに起こったり、機械が思い通りに動いてくれて、その上、お客様が満足してくれるって楽しいことですし、嬉しいことです。社員さんたちにも仕事の中に楽しさや嬉しさを見つけてもらいたいですし、経験して欲しいですね。働いている自分が楽しくなければ、お客様にとつても良い仕事ができないし、その雰囲気がいよいよ仕事をもちたしてくれと信じています。その雰囲気をお客様や取引先、地域の人たちにも分け与えると言うのはおこがましいですが、仕事や会社を通じてどんどん伝える事ができたらいいかなと思います」